小山市本場結城紬未来継承ビジョン

（令和 5 年度～令和 14 年度）

2023 年度～2032 年度

小 山 市

- 目　次 -

１．ビジョンの目的 …… 1

２．策定体制 …… 1

３．ビジョンの期間 …… 1

４．産地の状況 …… 2

生産量の状況 …… 2

生産者（製織事業者）の状況 …… 2

５．第２期「小山市本場結城紬復興振興５カ年計画」の検証 …… 4

６．小山市の本場結城紬産業が目指す 10 年先の姿に向けて …… 6

計画の柱・目標 …… 6

小山市の本場結城紬産業が目指す 10 年先の姿のイメージ …… 7

７．本場結城紬継承サイクルの完成に向けた取り組み …… 8

柱１．後継者の育成 …… 8

柱２．結城紬をつくり続ける …… 11

柱３．結城紬の活用 …… 12

８．本場結城紬を未来に残すための継承体制 …… 18

本場結城紬を未来に残すための継承体制プラン …… 18

本場結城紬継承サイクルを支える小山市の役割 …… 19

資料編 …… 21

資料１　小山市本場結城紬振興調査推進協議会委員名簿 …… 22

資料２　小山市本場結城紬未来継承ビジョンの策定に係る現状調査結果 …… 23

資料３　着物ユーザー等に向けたアンケート調査結果 …… 28

1．ビジョンの目的

小山市が誇る伝統産業であり、平成 22 年（2010 年）に世界のユネスコ無形文化遺産に登録された結城紬は、長引く景気の低迷や生活様式の変化に伴う着物離れ等により、生産量が年々減少しています。このままでは日本最古の織物の伝統技法を今に伝える「本場結城紬」が未来へ継承されず、途絶えてしまうことも懸念されます。

このような状況を打破するため、本市における本場結城紬産業の活性化に向けた振興策について、平成 25 年（2013 年）3 月に第 1 期「小山市本場結城紬復興振興 5 カ年計画」、平成 30 年（2018 年）3 月に第 2 期「小山市本場結城紬復興振興 5 カ年計画」を策定し、各種事業に取り組んでまいりましたが、生産反数・生産者数共に減少に歯止めが効かない状況にあります。

特に生産者数の減少は「本場結城紬」の存続に大きく影響するものであり、生産技術を確実に継承していく体制を整える必要があります。

長きにわたる歴史の灯を守ることが小山市の責務であり、「技術の継承」を重点課題と捉え「小山市本場結城紬未来継承ビジョン」を策定するものです。

2．策定体制

本ビジョンは次に示す体制で遂行するものとします。小山市、生産者、学識経験者等で構成する「小山市本場結城紬振興調査推進協議会」（以下、「協議会」と表記）において協議・検討を行うため、ビジョン策定の作業部会として協議会内に「本場結城紬復興振興分科会」（以下、「分科会」と表記）を組織し、関係者からの意見の収集や策定内容の協議・検討を行います。

また、協議会委員や産地生産者等への現状調査、着物ユーザー等に向けたアンケート調査により本場結城紬に関する意見を収集し、ビジョンへの反映を図るものとします。

3．ビジョンの期間

小山市の伝統産業である本場結城紬は、未来のあるべき姿を見据えつつ永続的に継承され続ける必要があります。このため、社会情勢や時代に沿った事業展開を行えているか等、事業の進捗状況の確認・見直しのための一定の期間を設け、効果的な事業の推進・事業評価を行います。また、ビジョンの期間は 10 年とし、その中間年度の 5 年目を経過する時点で必要に応じてビジョンの見直しを行うこととします。

■ビジョンの期間：令和 5 年度（2023 年度）から令和 14 年度（2032 年度）まで

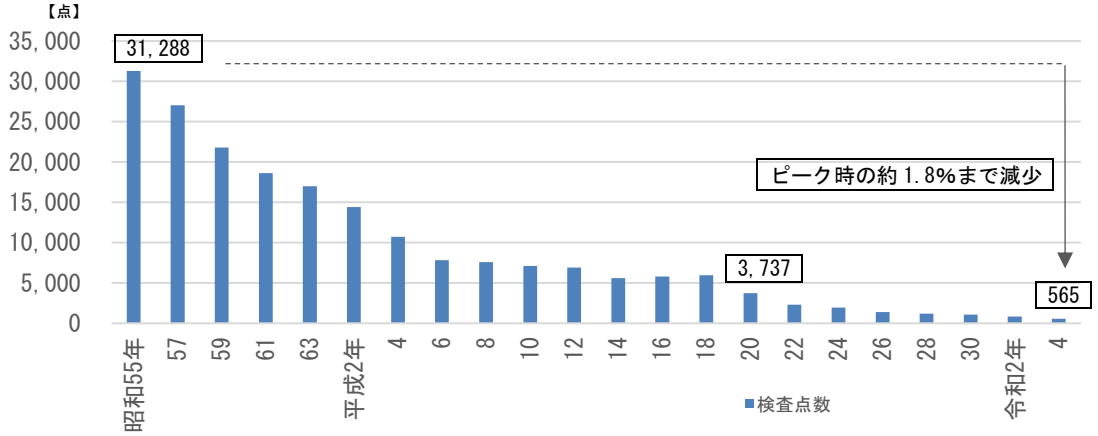
４．産地の状況

生産量の状況

本場結城紬の生産量（検査点数）は、昭和 49 年（1974 年）に放送された連続テレビ小説「鳩子の海」が火付け役となり、5 年にわたる結城紬の流行が生まれたものの、昭和 55 年（1980 年）の 31,288 点をピークに減少へ転じ、バブル経済崩壊後は 7,000 点前後の生産量を推移しました。その後、平成 20 年（2008 年）秋のリーマン・ショックにより更に減少へ転じ、令和 2 年（2020 年）に国内初の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発症が確認され以降は、蔓延防止策による行動制限やイベント自粛の影響もあったことから、令和 4 年（2022 年）には 565 点まで減少する生産量となりました。

これは 42 年間で生産量がピーク時の約 1.8%に減少したこととなり、産地では現状のままでは今後も生産量は減少するとの見方となっています。

■本場結城紬検査点数の推移（茨城県と栃木県の合計）



【参照資料：本場結城紬産地振興計画　令和 3 年（2021 年）3 月策定（計画期間 5 年）】

生産者（製織事業者）の状況

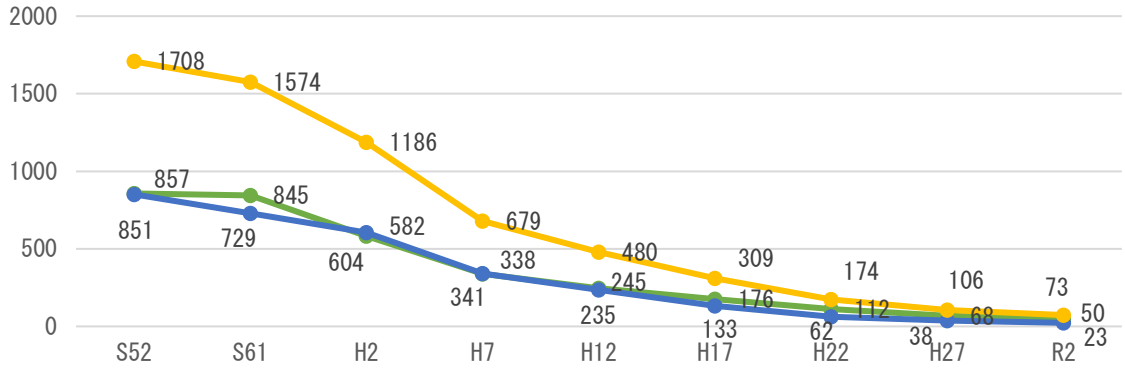
令和 2 年（2020 年）の生産者数（茨城県本場結城紬織物協同組合及び栃木県本場結城紬織物協同組合の組合員の合計）は 73 名であり、昭和 50 年代の最盛期（約 1,700 名）の約 4.3%に減少しています。組合員の約 4 割が専業経営ですが、残りは兼業又は休業しており、低賃金や高齢化に伴い深刻な後継者不足に陥っています。

また、取引先のほとんどが産地問屋であり、産地問屋の発注指示に従い生産しており、製織事業者（織元）は生産に特化しています。

昨今の栃木県本場結城紬織物協同組合員数は平成 30 年（2018 年）で 54 名に対し、令和 5 年（2023 年）には 17 名と約 3 割に減少しています。

また、原料事業者（本場結城紬原料商共同組合）・糸取者、染色事業者（本場結城紬染色工業組合）についても高齢化や後継者不足の問題を抱えており、製織事業者（織元）と同様に深刻な状況に陥っています。

■本場結城紬産地組合員数の推移



（注記：組合員は１軒につき代表者１名となっている。）

【参照資料：本場結城紬産地振興計画　令和３年（2021 年）３月策定（計画期間５年）】

■生産者の工程別従事者数と平均年齢【単位：人（カッコ内が平均年齢）】

県別	平成 30 年				平成 25 年			
	製織	絣括り	下拵え	計	製織	絣括り	下拵え	計
茨城	94(57.7)	21(62.1)	23(67.6)	138	126(58.7)	30(61.7)	42(68.1)	198
栃木	32(62.2)	13(68.8)	9(71.7)	54	39(66.3)	18(67.2)	6(70.0)	63
計	126(60.0)	34(65.5)	32(69.7)	192	165(62.5)	48(64.5)	48(69.1)	261

【参照資料：本場結城紬産地振興計画　令和３年（2021 年）３月策定（計画期間５年）】

■後継者の状況【単位：戸】

県別	後継者の有無（戸）					
	平成 30 年			平成 25 年		
	いる	いない	不明	いる	いない	不明
茨城	2	35	2	5	52	4
栃木	0	18	2	1	30	2
計	2	53	4	6	82	6

【参照資料：本場結城紬産地振興計画　令和３年（2021 年）３月策定（計画期間５年）】

５．第２期「小山市本場結城紬復興振興５カ年計画」の検証

第２期計画の概要

策定年月	平成 30 年（2018 年）3 月
計画の目的	小山市が誇る伝統産業であり、平成 22 年（2010 年）に世界のユネスコ無形文化遺産に登録された「結城紬」産業の活性化に向けた復興振興策について、生産反数の減少や産地の高齢化等の状況を踏まえ、平成 25 年（2013 年）3 月に策定した第 1 期「小山市本場結城紬復興振興 5 カ年計画」に続く、第 2 期計画を策定するものとしています。
計画の期間	平成 30 年度（2018 年度）～令和 4 年度（2022 年度）
計画のテーマ	「本場結城紬の復興振興」 ～和装文化とともに小山の伝統・文化を未来につむぐ～

第２期計画におけるアクションプランの検証

(1)検証の趣旨

第 2 期計画において位置づけられた 22 個のアクションプランについて、現時点での取り組み状況等を通し進捗内容や推進上の問題点等を把握します。

なお、各アクションプランの評価については、その取組状況等を勘案し、下記のように判断・判定した上でビジョンへの位置づけを検討します。

(2)評価方法

産地関係者を対象とする現状調査の結果と小山市が取り組む本場結城紬の振興事業の進捗状況・結果を照会し、以下のとおり 3 段階評価を行いました。

A：計画通りに進捗している

第 2 期計画による位置づけを踏まえ、具体的な振興事業等に取り組んでいる場合を当評価とします。ただし、実施時期や実施内容については、計画策定以降の社会経済情勢等の変化などを加味し、必ずしも合致しない場合も当評価に該当するものとします。

進捗状況やその効果等を踏まえ、既に完了し継続する必要性のないものを除き、基本的には今後のビジョンにおいても継続的な実施を検討するものとします。

B：アクションプランの実行に向けた検討が進められている

第 2 期計画による位置づけを踏まえ、具体的事業の実行に向けた検討を進めている場合を当評価とします。事業の継続については、今後の状況を見ながら改善・拡大が必要であるか判断し実行するものとします。

C：計画通り進捗されていない

第２期計画による位置づけはあるが、具体的事業として進捗されていない場合を当評価とします。進捗されていない原因等を把握するとともに、その原因が解決可能で、かつ本場結城紬の復興振興上必要と考えられるものについては、プラン内容の見直しを行いながら今後のビジョンにおいても位置づけを検討するものとします。

一方、不進捗の原因が解決不可能な場合は、第３期のビジョンでは位置づけが困難な方向性として捉えます。

(3)評価内容

取組の柱		事業進捗・取組状況	評価
1	生産基盤・体制の強化	市内養蚕農家の生産支援や桑栽培・桑商品の販売促進を図り、小山産繭を用いた本場結城紬を製作。織元等の生産組合に対し運営支援を行い、糸つむぎのさと（市施設）新設、紬織物技術支援センター（県施設）の改築によりハード面の強化を図った。	A
2	魅力の向上・発信	コロナ禍において著名人の影響力を利用した PR が困難となった一方で、市公式 SNS を活用したイベント・体験等の情報発信を行った。	B
		小山きものの日や着心地体験により和装の着用・体験機会の創出を図り、結城紬購入費等助成制度により市民の本場結城紬購入を支援した。	A
3	販路開拓・流通改革	大学と連携し新商品開発を行うも既製品との差別化は難しく開発段階で留まる。おやまゆ（市所有商標）については大きな進展なく停滞。流通に関しては自治体としての関与は難しいながらも長期的な改善に向けた関連組織への働きかけを行った。	B
4	後継者育成・確保	真綿かけ・糸つむぎ講習会により原料部門の技術者を育成し、市民向けの着付け教室を開催することで着物の着用推進を図った。紬織士２名を採用し、織元で本場結城紬の全工程の技術習得研修に取り組む。	A
5	和装文化再興	市内小・義務教育学校での本場結城紬体験授業の実施や学習ブックの充実を図った。民間イベント（マルシェ等）や近隣市町村と連携した和装イベントを開催。シルクのまちづくり市区町村協議会（以下、「シルク協」と表記）に引き続き加入し、他市町村との交流・連携を強化。シルク・紬サミット、着付け資格制度の創設はコロナ禍で実施を見送った。	B
6	連携・ネットワーク	コロナ禍の影響でインバウンド効果は小さかったものの、クラフト館や糸つむぎのさとで展示・体験等を行い、市内小・義務教育学校の社会科見学や団体旅行客等の受入れにより施設利用を促進。市協議会における小山産繭の活用や研究、シルク協加入他自治体との連携、近隣市町村との連動した和装イベントの開催等で関係機関との連携強化を図った。	A

(4)評価結果

第２期計画に基づき各種事業に取り組みましたが、生産反数・生産者数共に減少に歯止めが効かない状況であり、現状の事業を見直しながらも、第３期のビジョンでは技術の継承を重点課題と捉え、基本施策等の構築を図るべきと考えられます。

6．　小山市の本場結城紬産業が目指す 10 年先の姿に向けて

平成 30 年（2018 年）3 月に策定した第 2 期「小山市本場結城紬復興振興 5 カ年計画」では、計画の柱として①生産基盤・体制の強化、②魅力の向上・発信、③販路開拓・流通改革、④後継者育成・確保、⑤和装文化再興、⑥連携・ネットワークを設定し本場結城紬の復興振興に取り組みましたが、産地の現状を見ると原料製作をはじめ各工程に技術者である職人が安定的に存在しておらず、後継者による技術継承が循環的に行われないため、現状を打破しない限り本場結城紬を未来へ残していくことはできません。

仮に、後継者が確保されたとしても、本場結城紬を製作し続けるための活動拠点の確保や原料供給の安定化が必要であり、後継者の製作した本場結城紬の活用を検討することが振興策を講じる上で欠かせません。

また、低賃金等の問題により若手後継者の定着が難しい状況下で、引き続き産地振興を行いつつも産地が一体となって本場結城紬の継承に取り組む官民連携の新組織（公社/第 3 セクター等）の立ち上げを検討し、紬織士が技術の伝承・指導を行いながら民間後継者と協力体制の元で本場結城紬の生産から販売まで取り組み、確実な技術継承を行うための生産体制の構築等、産地の状況に合わせて瞬時に対応できるよう準備を進めておかなければなりません。

このような産地背景や現状課題、協議会委員や産地生産者・関係機関からの意見を踏まえ、本ビジョンでは、10 年先に目指す小山市の本場結城紬のあるべき姿の実現に向け、「後継者の育成」・「結城紬をつくり続ける」・「結城紬の活用」を 3 本柱として設定し、各取組の柱に応じた目標を基本施策として位置づけます。

計画の柱・目標

柱１．後継者の育成

目標①　原料製作をはじめ各工程に技術習得者が安定的に存在している。
目標②　技術継承が継続的・循環的に行われる状況にある。

柱２．結城紬をつくり続ける

目標①　後継者の活動拠点が確保され、安定的に本場結城紬が製作され続けている。
目標②　小山産繭が活用され、紬織士等の反物製作者が使う糸の確保がされている。

柱３．結城紬の活用

目標①　製作された本場結城紬が販売できている。
目標②　本場結城紬の着物が着られている。
目標③　SNS 等を通して本場結城紬の情報が発信され、小山市が本場結城紬の生産地だと認知されている。
目標④　小・中・義務教育学校や高等学校の学びに和装文化・産業教育が取り入れられ、本場結城紬の理解の定着が図られている。

■小山市の本場結城紬産業が目指す 10 年先の姿のイメージ

本場結城紬の振興

柱１．後継者の育成

〇原料製作をはじめ各工程に技術習得者が安定的に存在している。
〇技術継承が継続的・循環的に行われる状況にある。

本場結城紬の
継承サイクルが
完成

柱２．結城紬をつくり続ける

〇後継者の活動拠点が確保され、安定的に本場結城紬が製作され続けている。
〇小山産繭が活用され、紬織士等の反物製作者が使う糸の確保がされている。

柱３．結城紬の活用

〇製作された本場結城紬が販売できている。
〇本場結城紬の着物が着られている。
〇SNS 等を通して本場結城紬の情報が発信され、小山市が本場結城紬の生産地だと認知されている。
〇小・中・義務教育学校や高等学校の学びに和装文化・産業教育が取り入れられ、本場結城紬の理解の定着が図られている。

本場結城紬が未来へ継承され続ける

７．本場結城紬継承サイクルの完成に向けた取り組み

柱１．後継者の育成

目標①：原料製作をはじめ各工程に技術習得者が安定的に存在している。

目標②：技術継承が継続的・循環的に行われる状況にある。

産地の現状・問題点

(1)本場結城紬の全工程の内、絣くくり、染色、下拵え部門の後継者育成が遅れており、各工程に技術習得者が安定的に存在していない。

(2)家族間経営を前提としない生産活動では製作の手間に値する収益は見込めず、現状の不安定な賃金形態では民間の後継者が定着するのは困難である。

(3)現状の織元が担う絣や下拵えに関する生産技術を習得した後継者が育成される確率は極めて低い。

(4)現役で生産する職人以外に民間に指導者がいないため、後継者が確保されるより前に指導のできる人材がいなくなると技術継承が循環的に行えない。

(5)各工程が分業制ゆえに、織元内で主要工程を担う人材が欠けてしまった場合に所属の織子等も連帯で廃業を余儀なくされ技術継承が継続的に行えない。

目標達成に向けて　つくる『 人 』が必要

【基本施策】市職員紬織士３名が継続的に活動します

アクションプラン

本場結城紬の全工程を習得する市職員紬織士３名によって生産技術を網羅し、定年等における紬織士自身の新陳代謝後も、本場結城紬の「核」となる技術者が欠けない雇用状態を保ち続けます。

アクションプランの効果

市職員紬織士３名の雇用サイクルが維持されることにより、絣くくりや染色、下拵え工程にも偏りや欠落なく技術者が存在するため、本場結城紬の確実な未来継承が行えます。

【基本施策】技術指導者の確保・育成を行います

アクションプラン

紬織士は織元での研修で本場結城紬の全工程の生産技術を習得します。指導スキルの習得方法に関しては、市施設を活動拠点としながら織元より独立した状態にて製作活動を行い、本場結城紬の全工程のうち、市施設において指導スキルの習得が困難な作業工程については、必要に応じて栃木県紬織物技術支援センターと協議し、センター設備等を利用しながら指導者としての技術を身に付けます。

指導者としての技術スキルを身に付けた紬織士は、新組織における工房スタッフや各種生産工程の研修生等の指導を行い、技術者の育成に取り組みます。

アクションプランの効果

既存織元が廃業し民間から指導者を確保できない状況に陥ったとしても、全工程を習得した紬織士が「指導者」となることで工房スタッフや民間の後継者は安定的に生産に関する技術指導を受けられます。

【基本施策】工房スタッフの確保・育成を行います

アクションプラン

民間の後継者を新組織の工房スタッフとして確保（雇用）・育成し、本場結城紬の全工程を習得した技術者として紬織士と相互に協力し合いながら生産や工房運営を行います。

アクションプランの効果

工房スタッフとして雇用されながら生産活動が行えるため、絣や下拵え等の織元的機能を担う民間後継者の賃金問題が解消され、紬織士との相互協力を得ながら本場結城紬の生産が継続的に行えます。

【基本施策】民間後継者（原料製作・製織等）の育成を行います

アクションプラン

真綿かけや糸つむぎ、地機による製織等の各工程別に民間後継者の育成を行います。

アクションプランの効果

産地内に原料製作を担う人材や製織を行う織子等の技術者が確保され、後継者不足による職人不在の状況が解消されます。

目標達成に向けて　つくる『 機会 』が必要

【基本施策】技術習得の研修会（有料/無料）を開催します

アクションプラン

真綿かけや糸つむぎ等の各種製作技術に関する講習会や地機による製織技術者の育成研修等を開催します。

アクションプランの効果

民間後継者に対して本場結城紬の技術を学ぶ機会が創出され、各工程に安定的な技術者の確保が行えます。

【基本施策】欠落した工程を技術指導により穴埋めできるシステムを構築します

アクションプラン

紬織士を民間後継者の元へ派遣し、欠落のある作業工程を穴埋めするような技術指導・補填のシステム構築に取り組み、生産の継続を希望する民間の後継者へ技術支援を行います。

アクションプランの効果

民間の織元内で主要工程を担う職人が病気等で欠け生産の継続が困難となってしまった事例において、従来は所属下の織子等も連帯で廃業を余儀なくされていましたが、欠けた作業工程を紬織士が補い指導することで民間後継者は連帯で廃業する可能性を回避できます。

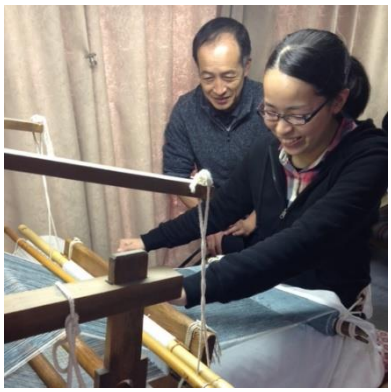
【基本施策】製作上の過程における相談受付システムを構築します

アクションプラン

本場結城紬の製作に関する技術指導や相談を受けられるシステムを構築し、紬織士が民間後継者の抱える生産過程の疑問・悩みを解決します。また、各分野の後継者同士が情報交換を行えるような場・機会の創出を行います。

アクションプランの効果

紬織士や民間の後継者同士で情報共有が図られ、後継者が孤立することなく相互に協力を得ながら共同で作業に取り組める関係性が築けます。



◀　紬織士の研修風景

柱２．結城紬をつくり続ける

目標①：後継者の活動拠点が確保され、安定的に本場結城紬が製作され続けている。

目標②：小山産繭が活用され、紬織士等の反物製作者が使う糸の確保がされている。

産地の現状・問題点

(1)現在の織元は自宅で生産を行うため、共同で作業に取り組むような施設の利用は想定されないが、将来的には、後継者が技術や情報交換をし合い相互協力を得ながら製作が行える作業場が必要である。

(2)小山産繭を原料とする手つむぎ糸は年間 1～2 反分と生産規模が小さい。後継者が使用する原料（袋真綿・手つむぎ糸）の確保は現状よりも更に困難となる。

目標達成に向けて　つくる『 場所 』が必要

【基本施策】後継者の共同作業場を確保します

アクションプラン

紬織士や工房スタッフ、民間の後継者が相互に協力し合いながら本場結城紬の生産・販売や後継者育成まで一貫して行える工房的機能を持った製作環境を整えます。

アクションプランの効果

後継者同士で綿密な連携を図りながら共同で生産が行われるため、相互の技術を補いながら効率的な製作活動が行えます。また、織元の自宅兼作業場を民間後継者が引き継いだ場合の家賃や水道・光熱費等の建物維持に係る個人の経営負担が軽減します。

目標達成に向けて　つくる『 材料 』が必要

【基本施策】後継者が使用する原料を確保します

アクションプラン

小山産繭や国産繭を確保し、それら原料を使用した袋真綿・手つむぎ糸の生産量増加を図ります。また、小山産のブランド繭の生産を推進するため、地元養蚕農家に対し稚蚕導入・高品質繭・養蚕ヘルパーに関する生産支援を行い、蚕の餌となる桑の栽培や桑関連商品の販売促進による事業者の自走を支援します。

アクションプランの効果

小山産繭や国産繭を原料に使用した手つむぎ糸が、紬織士や工房スタッフ、民間の後継者へ安定的に供給され、本場結城紬の継続的な生産が行えます。また、市内養蚕農家への支援により、繭から市内一貫生産による本場結城紬の製作が行えます。

柱３．結城紬の活用

目標①：製作された本場結城紬が販売できている。

目標②：本場結城紬の着物が着られている。

目標③：SNS 等を通して本場結城紬の情報が発信され、小山市が本場結城紬の生産地だと認知されている。

目標④：小・中・義務教育学校や高等学校の学びに和装文化・産業教育が取り入れられ、本場結城紬の理解の定着が図られている。

産地の現状・問題点

(1)紬織士や工房スタッフ、民間の後継者が生産する本場結城紬が用途のないまま在庫として残り続けないような生産・流通体制の構築が必要とされる。

(2)着物ユーザー等に向けたアンケート調査おいて、本場結城紬を購入するにあたっての壁として「価格の高さ・分かりにくさ」が 80.6%と最も多く挙げられている。

また、本場結城紬の所有率については 55.3%と比較的高い傾向ではあるものの、本場結城紬を購入するにあたっての壁として「着用先の少なさ」が挙げられており、小山市民等が着物を着て外出したくなるような和装イベントの拡充や、格式高く感じられやすい着物の着付けがもっと手軽に学べるような型にはまらない講座の開催が求められている。

(3)本場結城紬の情報発信や PR について、産地関係者への現状調査の結果では、回答者の 45.5%は「ある程度行われている」と感じているものの、情報の発信方法についてはまだまだ伸び代があり、引き続き本場結城紬の PR を行い時代に沿った方法で魅力発信を強化する必要がある。

また、着物ユーザー等に向けたアンケート調査において、小山市が本場結城紬の産地であることの認知度は 94.2%と高い割合だったものの、着物ユーザー以外の幅広い年代を対象とした場合の認知度は不透明である。また、効果的な事業展開を実現するにあたり、消費者の動向や意識の調査が求められている。

(4)一部の市内小・中・義務教育学校では本場結城紬の体験授業を行っているものの、まだまだ実施校が少なく子どもたちへの教育は行き渡っていない。子どものうちから郷土の伝統文化に触れられるような教育機会の創出・強化が求められている。

目標達成に向けて　『 販売体制 』を強化

【基本施策】新組織等による卸商図案の受注と納品を行います

アクションプラン

卸商からの図案発注を新組織等によって受注し、紬織士や工房スタッフ等の後継者が本場結城紬の生産を行います。また、絣製作から下拵えまでを新組織等で対応し、製織技術者の育成研修で養成した織子等の民間後継者に製織を依頼します。

アクションプランの効果

消費者や小売等の需要を基にした卸商による図案が製作されるため、時代のニーズから逸脱したデザインの受注・生産を避けられます。

また、新組織として紬織士や工房スタッフが絣製作・下拵えを担うことにより、織子等の民間後継者へ製織依頼をした際の賃金が現状の工賃より上乗せできるため、長年の課題である製作の手間に見合わない低賃金問題を軽減できます。

【基本施策】後継者が生産した本場結城紬の販路開拓等を検討します

アクションプラン

紬織士や工房スタッフ等の後継者が技術維持・新柄研究を目的として製作した本場結城紬の販路開拓について検討・研究を行います。

アクションプランの効果

後継者が技術維持や新柄研究において本場結城紬を製作し、自身の技術力向上を図り続けることによって、卸商からの多様なデザイン受注の際に注文内容に沿った再現度の高い本場結城紬が製作できます。また、後継者の技術力向上と販路開拓等を同時並行で取り組むことにより、スキルアップの副産物として大量の本場結城紬を在庫として抱えるリスクを軽減できます。

【基本施策】インバウンド（訪日外国人）に対応します

アクションプラン

おやま本場結城紬クラフト館を起点とした訪日外国人の本場結城紬着心地体験等を実施し、多言語表記による館内説明資料の充実を図ります。

アクションプランの効果

新型コロナウイルス感染症による水際対策の緩和に伴い、訪日外国人が増加傾向となる中で、産地の歴史・文化等を含めた体験型の観光資源として本場結城紬が活用され販売促進が図られます。

目標達成に向けて　『 着用機会 』を強化

【基本施策】市民向けに本場結城紬の購入を促進します

アクションプラン

小山市民の本場結城紬購入を支援するため実施している「結城紬購入費等助成制度」について、必要に応じ助成金額の見直し等を行いながら今後も継続的に実施し、積極的な本場結城紬の購入を促進します。

アクションプランの効果

小山市民に対して本場結城紬の購入を支援することにより、購入にあたっての壁である「価格の高さ」が緩和され、産地と市民が一体となった本場結城紬の着用促進が図られます。

【基本施策】着物を着たくなる和装イベントを開催します

アクションプラン

着物＝和風と位置づけるのではなく、和洋折衷の形にとらわれない柔軟なイベント内容を企画し、民間主催のイベント（マルシェや音楽フェス等）と積極的コラボレーションを行います。また、市内イベント（桜まつり・西口まつり等）へ着物着用での積極的参加募集や、小山市民等に向けた和装お出かけ旅行ツアーの開催を検討します。

アクションプランの効果

民間主催のイベント等とコラボすることで、今まで着物に興味の無かった層にもアプローチが行えイベント同士の相乗効果が生まれます。また、和装関連のイベントを実施することにより、消費者に着物の着用先や着用目的が創出され、本場結城紬の着用意欲の醸成が図られます。

▲　小山きものの日　風景

【基本施策】市民向け着付け教室を開催します

アクションプラン

市所有の本場結城紬や着付け小物を貸し出し、市民が手ぶらで参加して本場結城紬を着られる着付け教室を開催します。また、着付けの習得レベルに応じた難易度設定を行い、市民がより気軽に参加しやすいカリキュラムでの講座開催を検討します。

アクションプランの効果

市民に向けた着付け教室を開催することにより、民間から和装振興・着物や本場結城紬の着用促進の醸成が図られます。また、本場結城紬の着用を前提とすることにより、市民に対する本場結城紬の興味・関心が向上する他、物品貸し出しや習得レベルに応じた難易度設定を行うことで、敷居が高く感じられやすい着物が手軽で身近な存在として着用意識の醸成が図られます。

【基本施策】小山市民を対象に本場結城紬に関する消費者動向調査を実施します

アクションプラン

居住地区・年齢等を制限しない小山市民の幅広い層に対し、本場結城紬に関する消費者動向調査を行い、効果的な事業展開に向けたデータ収集を行います。収集したデータを元に、小山市本場結城紬振興調査推進協議会において小山産繭を活用した新作本場結城紬の製作や販路開拓、マーケティング等の研究を行います。

アクションプランの効果

令和４年度に着物ユーザー等に向けたアンケート調査を行いましたが、居住地区・年齢等を制限しない小山市民の幅広い層に対して調査を行った場合のデータは不十分です。消費者の動向を調査することで、事業を実施する中での不足している部分、事業の伸び代有無、市民の需要等を把握できるため、より効果的な事業展開が行えます。

▲　市主催　着付け教室

目標達成に向けて　『 情報発信 』を強化

【基本施策】本場結城紬に関する情報発信を強化します

アクションプラン

おやま本場結城紬クラフト館において本場結城紬の実演や製作体験、展示や着心地体験等を実施し、来館者が本場結城紬を身近に感じられるよう PR・情報発信を行います。

また、同施設において本場結城紬を実際に買える場所（小売・販売店）や購入費助成制度等の案内が行えるよう発信内容の充実を図ります。

また、市が従来行ってきた本場結城紬に関する情報発信方法を見直し、インターネットや SNS を積極的に活用した情報展開を行います。

アクションプランの効果

市内の中心部に位置し、駅近で立ち寄りやすい「おやま本場結城紬クラフト館」において本場結城紬の実演や製作体験、展示・着心地体験等を行うことで、来館者が本場結城紬を身近に感じられ興味・関心を醸成できます。

また、本場結城紬を購入するにあたっての壁として「価格の分かりにくさ」が挙げられており、本場結城紬を扱う市内小売・販売店等の分布状況や価格帯、購入費助成制度等の案内を行うことで消費者の「分からないことでの手の出しにくさ」を解消できます。

また、市が行う従来の情報発信方法として、チラシ・パンフレットの配布、イベント参加希望者への DM 送付、市広報・HP のイベント掲載、外部メディアの取材対応を行ってきましたが、インターネットや SNS を活用した「若い世代」への情報発信力は弱い傾向にあります。時代に沿った新しい手法を柔軟に取り入れることで、幅広い年代に対して本場結城紬に関する PR が行えます。

▲　クラフト館の展示

▲　着心地体験の様子

▲　地機織り体験の様子

目標達成に向けて　『 学び 』を強化

【基本施策】子どもの文化・産業教育を拡充します

アクションプラン

希望のあった市内の小・中・義務教育学校や高等学校に出向き、本場結城紬の着心地や製作工程の体験授業を行う他、学校側の負担も考慮し、夏休み等の長期休暇を対象とした本場結城紬の教育プログラムの開催を検討します。また、「桑・蚕・繭・真綿かけ・糸つむぎのさと」や「おやま本場結城紬クラフト館」を活用した社会科見学等の積極的受け入れを行い、同施設の活用促進を図ります。

また、七五三や小山市二十歳を祝う会（旧成人式）の本場結城紬着用に向け、５歳・７歳用本場結城紬の貸出整備や振袖本場結城紬の試着会を行い、本場結城紬の着用機会創出を図ります。

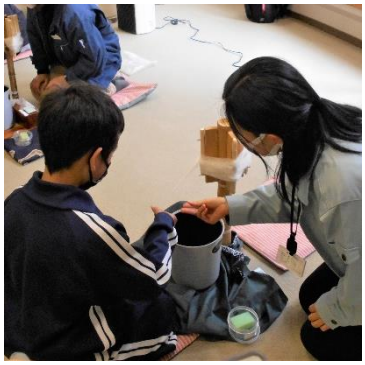
アクションプランの効果

子どもの内から本場結城紬に触れられる教育・着用機会の創出を行うことで、地元の伝統文化に興味・関心のある人材が育成され、小山市民の和装振興・着物や本場結城紬に対する意識向上が図られます。

また、子どもたちへの教育を通し、親世代に対しても本場結城紬の興味・関心を引き出す効果があり、学校の長期休暇期間中を利用することで平日でも教育プログラムに参加しやすい環境づくりを行えます。

▲　糸つむぎのさと外観

▲　糸つむぎのさと模型展示



▲　中学生の糸つむぎ体験

８．本場結城紬を未来に残すための継承体制

本場結城紬の継承は産地関係者・行政に共通する最も重要な使命であり、今後の社会情勢が不明瞭な中でも、産地の状況に合わせて瞬時に対応できるよう複数のプランを持ち、本場結城紬の継承には何が必要なのか、何と向き合うべきなのか、思考を止めず歩み続けなければなりません。

本場結城紬の産地振興を引き続き行う中で、生産者を中心に組織される栃木県本場結城紬織物協同組合に対して継続的な運営支援を行い、確保・育成した民間後継者の同組合への加入促進を図ります。また、産地振興と並行し、本場結城紬を次世代へつなぐために、既成概念にとらわれない柔軟な生産体制の検討・研究を行います。

後継者が外部から流入しても、家族間経営を前提としない生産活動では製作の手間に値する収益は見込めず、現状の不安定な賃金形態を改善しない限り後継者の定着は困難です。

数十年にわたり未だ解決の糸口が見いだせない慢性的後継者不足の現状を見ると、今まで通りの生産体制による継承の他にも、新たな視点での産地課題に取り組むビジョンが必要となる過渡期を迎えつつあるのかもしれません。

なお、新組織の立ち上げは本場結城紬を確実に継承するための将来的な選択肢の一つであり、ビジョン策定後においても生産組合や関係機関等との協議を行い、産地と行政が一体となって産地振興と並行して進めるものとします。

本場結城紬を未来に残すための継承体制プラン

優先的取組プラン

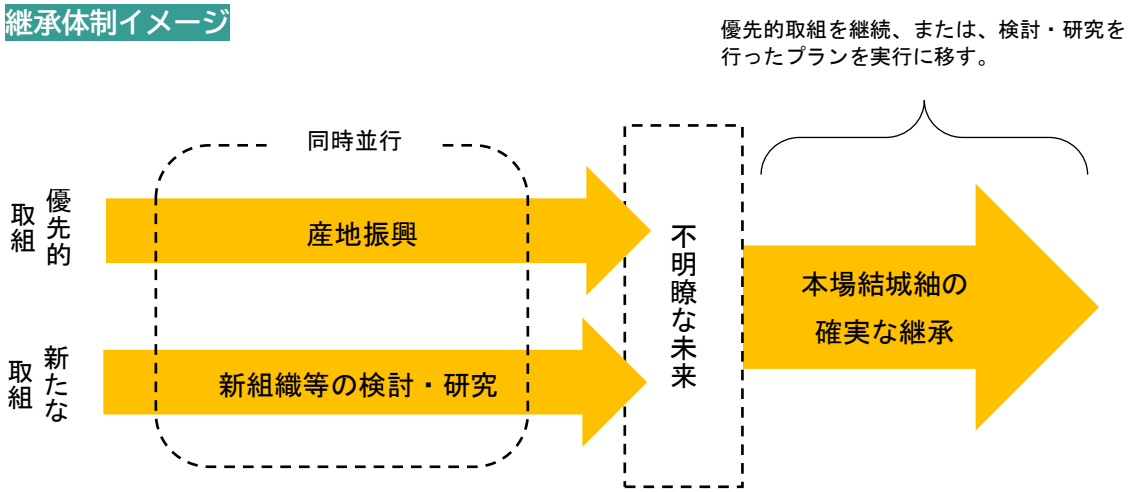
引き続き産地振興を行い、現行の織元から民間後継者への事業継承を図り、産地として後継者育成・確保等を行う。

新たな取組プラン

本場結城紬の生産から販売までを一貫して行う工房的機能を有する新組織を立ち上げ、官民の後継者が一丸となって本場結城紬の技術を未来へと継承する（案）

その他、本場結城紬を引き継ぐ側である若手後継者視点の意見を取り入れる等、複数の継承体制プランを検討・研究し、産地の状況に合わせ瞬時に対応できるようにする。

継承体制イメージ



本場結城紬継承サイクルを支える小山市の役割

アクションプランを実行に移すにあたり、小山市や各関係団体が担う役割を確認しながら綿密な相互連携を図り、本場結城紬の継承サイクルを支えて行く必要があります。

紬織士の採用

本場結城紬の全工程を習得し、確実な技術継承を行う人材として市職員紬織士を確保します。

全工程の技術継承

引き続き産地振興を行い、現行の織元から民間後継者への事業継承を図り、産地として後継者育成・確保等を行います。同時並行として、産地が一体となって本場結城紬の継承に取り組む新組織の立ち上げ等の検討・研究に取り組み、各関係団体等との協議・調整を行います。

行政間の連携強化

(1)栃木県との連携・調整

よりよい産地振興を行うために、施設の利用方法等を含め県・市の役割を確認し合いながら綿密に連携し協議を行います。

(2)茨城県・結城市との連携

両県・両市が垣根を越え、産地全体で相互に協力し合いながら産地の問題に向き合い連携を図ります。

産地内の連携強化

(1)関係団体との連携・調整

両県の本場結城紬織物協同組合や各販売関係団体等と連携・調整を行い、本場結城紬を未来へ継承するための産地振興の在り方や新組織への図案発注・販路拡大等について協議します。

(2)小山農業組合との連携

小山農業協同組合と連携し、小山産繭を使用した本場結城紬の生産拡大・活用促進を図ります。

事務人材の確保

新組織の立ち上げが必要となった場合において、本場結城紬に関して専門知識のある事務職員を確保・育成し、本場結城紬の業界に精通した人材が事務局長として新組織の事務運営を行います。

- 資 料 編 -

資料編１

小山市本場結城紬振興調査推進協議会委員名簿

任期：令和４年６月23日～令和６年３月31日
（2022年６月23日～2024年３月31日）

	役職	選出区分	選出団体等	委員氏名
1	会長		小山市長	浅野　正富
2	副会長	商工団体	小山商工会議所 顧問	大森　武男
3	副会長	生産者	栃木県本場結城紬織物協同組合　理事長 本場結城紬原料商組合・伝統工芸士（染色部門）	須藤　英
4	委員	学識経験者	宇都宮大学　共同教育学部 芸術・生活・健康系家政分野　教授	佐々木　和也
5	委員		栃木県産業技術センター 紬織物技術支援センター　主任研究員	赤羽　輝夫
6	委員	生産者	栃木県本場結城紬織物協同組合　専務理事 伝統工芸士（染色部門）	坂入　則明
7	委員		栃木県本場結城紬織物協同組合　副理事長 本場結城紬原料商組合副理事長・伝統工芸士（染色部門）	柿木　肇
8	委員 （監査）		栃木県本場結城紬織物協同組合　理事 本場結城紬染色工業組合理事長・伝統工芸士（染色部門）	大久保　雅道
9	委員 （監査）		栃木県本場結城紬織物協同組合　理事 伝統工芸士（製織部門）	須藤　伸子
10	委員		NPO法人糸つむぎ・真綿かけの伝統技術を守る会 理事長	永田　順子
11	委員	広報・販売関係者	（一社）小山市観光協会　事務局長	須藤　昌弘
12	委員		結城紬織工房花田	花田　啓子
13	委員	着用推進関係者	清水学園・福田和裁着付け教室　室長	福田　悟子
14	委員	生産者（小山産繭）	JAおやま　営農経営部　農畜産課　蚕業技術指導員	須藤　日出夫
15	委員		JAおやま養蚕部会　部会長	五十畑　茂

（敬称省略・順不同）

	オブザーバー	栃木県　産業労働観光部 工業振興課　地域産業担当　副主幹（GL）	新島　美奈子
	オブザーバー	（株）石田　代表取締役	石田　節子

（敬称省略・順不同）

小山市本場結城紬未来継承ビジョンの策定に係る現状調査結果

(1)調査の趣旨

小山市本場結城紬未来継承ビジョンの策定にあたり、本場結城紬の後継者育成における課題や取組の方向性に対する意向等を調査し、計画課題の抽出や今後のビジョンを検討するにあたっての一助とすることを目的に実施いたしました。

(2)実施概要

①配布方法　：調査対象へ郵送による回答用紙の配布・回収
②調査期間　：令和 4 年 9 月 7 日（水）～令和 4 年 9 月 30 日（金）までの 24 日間
③配布数　　：配布数 49 票、回収数 33 票、回収率 67.4%

(3)調査対象

団体名・役職	配布人数	回答数
小山市本場結城紬振興調査推進協議会　委員	14 名	9 名
栃木県本場結城紬織物協同組合　組合員 （※協議会委員重複 5 名を除く）	15 名	5 名
NPO 法人糸つむぎ・真綿かけの伝統技術を守る会　会員 （※協議会委員・栃織協組合員等重複 5 名を除く）	13 名	11 名
おやま本場結城紬クラフト館　説明職員	3 名	3 名
栃木県産業技術センター・紬織物技術支援センター 製織指導を行う職員	4 名	2 名
	-	無記名 3 名
合計	49 名	33 名

(4)設問内容・ビジョン反映の考え方

設問		内容・ビジョンへの反映等
問 1	①～⑥	第 2 期小山市本場結城紬復興振興 5 カ年計画（H30 年度～R4 年度）の 6 つの取り組みの柱をベースとし、現状において本場結城紬を取り巻く各種状況等の評価を質問することで産地課題の把握・参考といたしました。
	⑦	後継者育成に焦点を絞った場合に、今後のビジョンにおける取組の優先度・重要度の参考といたしました。
	⑧	第 2 期小山市本場結城紬復興振興 5 カ年計画（H30 年度～R4 年度）の最終年度を迎える中で、本場結城紬の振興に対し、今後のビジョンにおける取組の優先度・重要度を位置づけるための参考といたしました。
問 2		各委員・関係者の立場において、本場結城紬の振興に係る現状的課題や今後の課題を記述式で設問し、現状的課題及び今後のビジョンの課題となる意見抽出・参考といたしました。
問 3		各委員・関係者の立場において、本場結城紬の振興に対するアイディアを記述式で質問し、今後のビジョンにおける具体的な検討事項等の参考といたしました。
問 4		各委員・関係者の立場において、本場結城紬の振興に対し貢献できることを記述式で質問し、今後のビジョンにおける具体的な検討事項をはじめ、それらの実現に向けた体制構築等の検討・参考といたしました。
問 5		本場結城紬を取り巻く課題の一つに挙げられる原料不足・確保に対して、各委員・関係者の立場等から考えられる対策・アイディアを記述式で設問し、今後のビジョンにおける具体的な検討事項等の参考とします。
問 6		本場結城紬を取り巻く課題の一つに挙げられる後継者育成に対して、各委員・関係者の立場等から指導・協力できることを記述式で設問し、今後のビジョンにおける具体的な検討事項等の参考とします。

(5) 調査結果

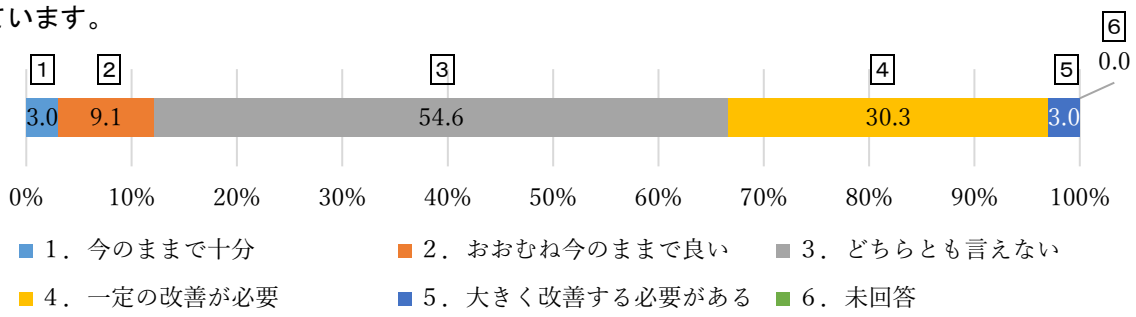
【問１】本場結城紬を取り巻く各種状況や後継者育成等について

①本場結城紬の生産体制について（生産基盤・体制の強化）≪1 つ選択）≫

（回答者数＝33 名）

■回答者の半数が、本場結城紬の生産体制についてどちらとも言えない、または一定の改善が必要と感じている。

「どちらとも言えない」が 54.6%を占め最も多く、次いで「一定の改善が必要」が 30.3%となっています。

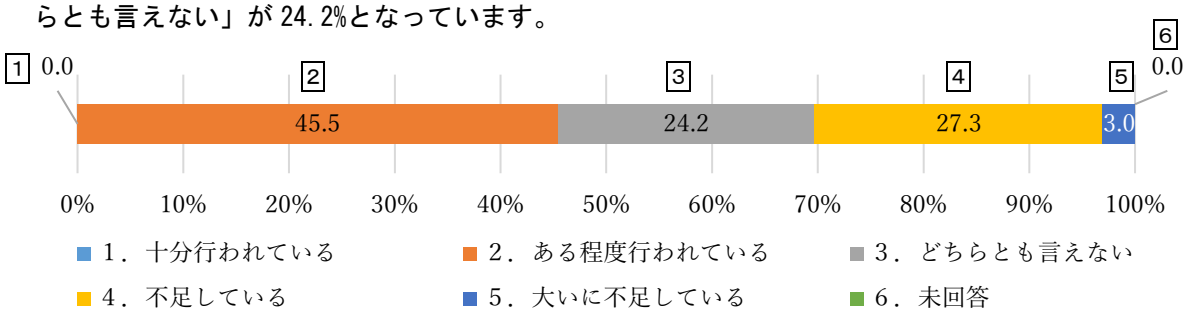


②本場結城紬の情報発信や PR について（魅力の向上・発信）≪1 つ選択）≫

（回答者数＝33 名）

■回答者の半数近くが、本場結城紬の情報発信や PR についてある程度行われていると感じている。

「ある程度行われている」が 45.5%を占め最も多く、次いで「不足している」が 27.3%、「どちらとも言えない」が 24.2%となっています。

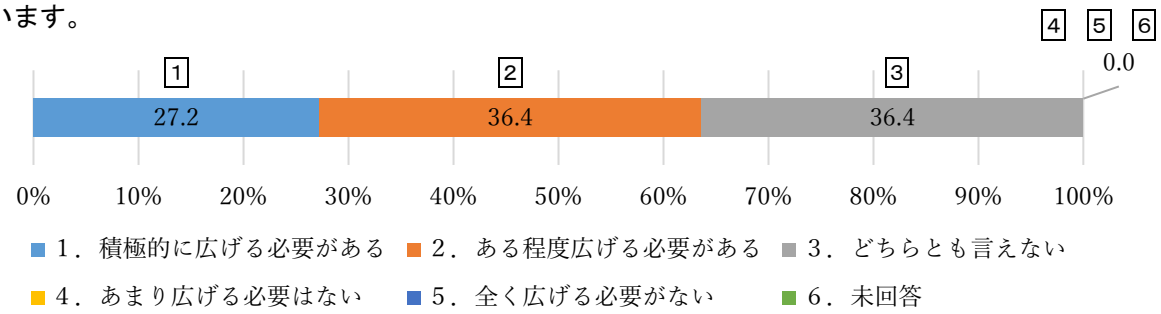


③本場結城紬の販路開拓について（販路開拓・流通改革）≪1 つ選択）≫

（回答者数＝33 名）

■回答者の 6 割強の人が、本場結城紬の販路開拓について積極的またはある程度広げる必要があると感じている。

「ある程度広げる必要がある」・「どちらとも言えない」が同率で 36.4%を占めており、「ある程度広げる必要がある」・「積極的に広げる必要がある」を合わせた場合の割合は 63.6%となっています。

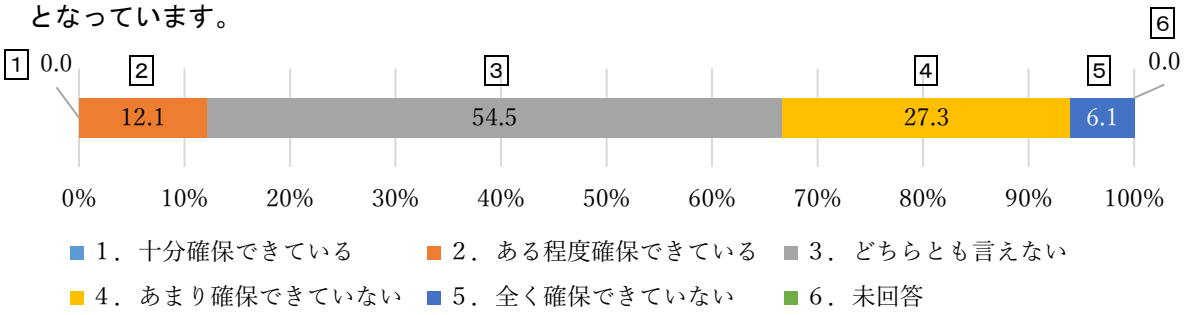


④本場結城紬の後継者育成について（後継者育成・確保）≪1 つ選択）≫

（回答者数＝33 名）

■回答者の半数が、本場結城紬の後継者育成についてどちらとも言えない、またはあまり確保できていないと感じている。

「どちらとも言えない」が 54.5%を占め最も多く、次いで「あまり確保できていない」が 27.3%となっています。

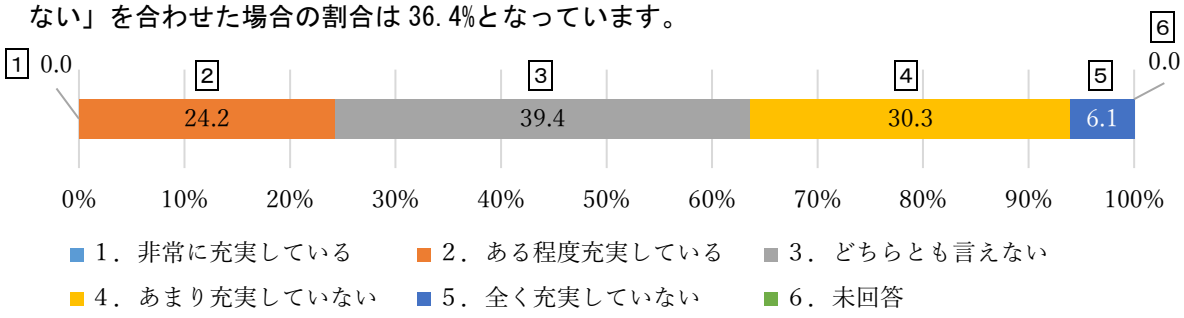


⑤和装に関するイベント・教育について（和装文化再興）≪1 つ選択）≫

（回答者数＝33 名）

■回答者の 4 割近くが、和装に関するイベント・教育についてどちらとも言えない、またはあまり充実していないと感じている。

「どちらとも言えない」が 39.4%を占め最も多く、「あまり充実していない」・「全く充実していない」を合わせた場合の割合は 36.4%となっています。

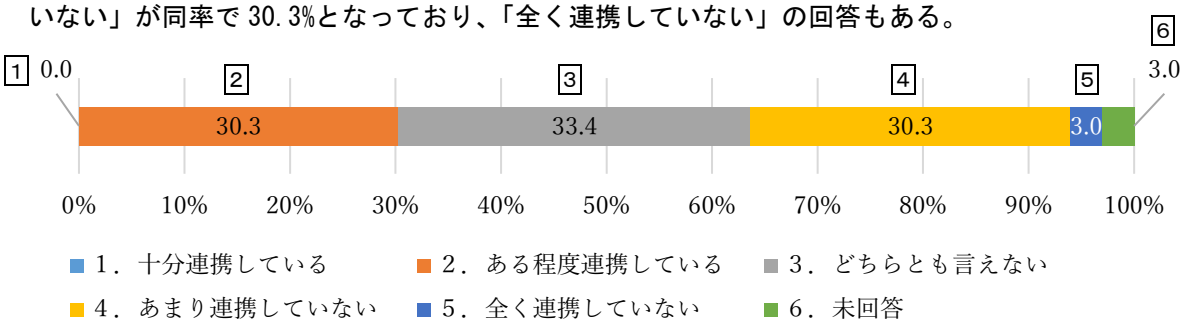


⑥本場結城紬の振興に関する栃木県・茨城県の両産地を跨る行政間の連携について（連携・ネットワーク）≪1 つ選択）≫

（回答者数＝33 名）

■回答者の 4 割近くが、本場結城紬の振興に関する栃木県・茨城県の両産地を跨る行政間の連携についてどちらとも言えない、またはあまり連携していないと感じている。

「どちらとも言えない」が 33.4%を占め最も多く、「ある程度連携している」・「あまり連携していない」が同率で 30.3%となっており、「全く連携していない」の回答もある。

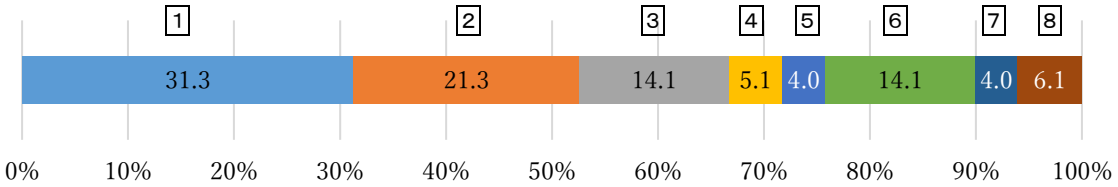


⑦本場結城紬の後継者育成に対し、特に重要と考える取り組みについて≪3 つ選択≫

（回答者数＝複数選択のため 99 名換算）

■後継者への技術継承や後継者の活動拠点の整備が特に重要な取り組みと感じている。

「後継者への技術継承」が 31.3%、「後継者の活動拠点の整備」が 21.3%を占めており、次いで「後継者による魅力発信」･「後継者が生産した結城紬の活用」が同率で 14.1%となっています。



1．後継者への技術継承　2．後継者の活動拠点の整備

3．後継者による魅力発信　4．後継者による技術の開示や提供

5．後継者による関連イベント等でのPR　6．後継者が生産した結城紬の活用

7．その他（自由回答）　8．未回答

その他の意見…販売方法、後継者への事業継承の支援

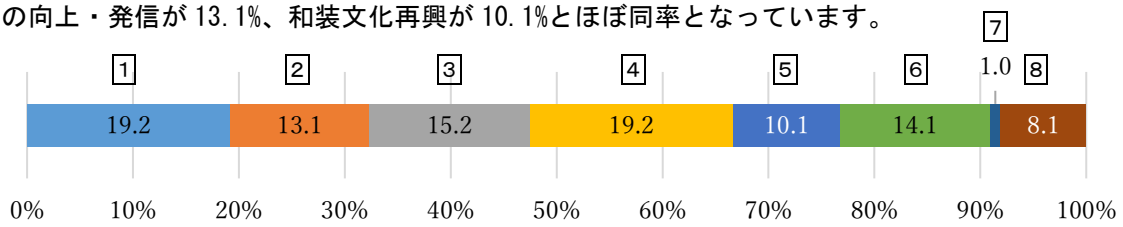
金銭面での援助：特に若い人に「やりたくても生活が出来ない」

⑧本場結城紬の振興に対し、特に重要と考える取り組み≪3 つ選択≫

（回答者数＝複数選択のため 99 名換算）

■生産基盤・体制の強化や後継者育成・確保が特に重要な取り組みと感じている。

「生産基盤・体制の強化」･「後継者育成・確保」が同率で 19.2%を占め最も多く、販路開拓・流通改革が 15.2%、連携・ネットワーク（国・県・市の連携や関係団体との連携）が 14.1%、魅力の向上・発信が 13.1%、和装文化再興が 10.1%とほぼ同率となっています。



1．生産基盤・体制の強化

2．魅力の向上・発信

3．販路開拓・流通改革

4．後継者育成・確保

5．和装文化再興

6．連携・ネットワーク（国・県・市の連携や関係団体との連携）

7．その他（自由回答）

8．未回答

その他の意見…ソーシャルメディアを使った発信

【問 2】～【問 6】までの自由記入欄意見（抜粋）

問 2	あなたの専門的立場から、本場結城紬の振興に係る現状の課題や今後の課題についてお聞かせください。
	①後継者が次世代へ引き継いでいくためのシステムの構築。 ②各工程の安定的な後継者の確保・育成。 ③分業を前提とした産地構造の中で、新規に織元として独立するのは困難。 ④小山市民等に対する本場結城紬の情報発信・PR 強化。 ⑤後継者の低賃金問題。 ⑥原料となる繭や高品質な手つむぎ糸の確保。 ⑦着物の着付け学習を含めた和装文化の再興。 ⑧産地職人の高齢化。
問 3	あなたの専門的立場から本場結城紬の振興に対して何かアイディア等があればお聞かせください。
	①和装イベント等を拡充し、小山市民が本場結城紬に触れる機会を創出。 ②半幅帯を用いた着心地体験等の型にはまらない体験プラン・講習会の提案。 ③需要と供給バランスの構築と消費者動向調査の実施。 ④若年層をターゲットとする新商品開発。 ⑤小・中・義務教育学校や高等学校等を対象とする和装文化教育の実施・拡充。
問 4	本場結城紬の振興を推進する上で、あなたの専門的立場から貢献できることをお聞かせください。
	①指導者として後継者を育成。 ②各種体験プランの提供、本場結城紬の PR・情報発信。 ③和装イベント等での魅力発信。 ④原料となる繭や真綿・手つむぎ糸の提供。 ⑤真綿かけや糸つむぎ等の本場結城紬に関する生産技術の習得・継承
問 5	現在、小山市では、小山市産の繭を使用した袋真綿・手つむぎ糸の生産に取り組んでおりますが、結城紬の原料不足・原料の確保における市内産繭の活用に関するアイディアや考えをお聞かせください。
	①紬織士等の若い後継者が使用する糸として確保。 ②小山産繭を活用した真綿かけ・糸つむぎ従事者の確保。 ③小山産繭を使用した本場結城紬の製作。 ④生産現場となる施設見学を行う。 ⑤小山産繭を使用したまゆクラフト等のワークショップの開催。 ⑥JA おやまとの連携強化による原料（繭）の確保。
問 6	あなたの専門的立場から、後継者育成に対して指導ないし協力できること、または、対策方法のアイディアについてお聞かせください。
	①市職員紬織士への技術指導・育成。 ②指導者の育成・確保。 ③地機織り・糸つむぎ等の実演対応や体験時における指導。 ④小・中・義務教育学校や高等学校等を対象とする講習会の指導やイベント参加・協力。 ⑤県と市の連携強化。

資料編 3

着物ユーザー等に向けたアンケート調査結果

(1) 調査の趣旨

本場結城紬や着物に関心のある消費者の動向調査として、小山きものの日の来場者や真綿かけ・糸つむぎ講習会、着付け教室等の参加者にアンケートを行い、ビジョン策定の資料や消費者動向のサンプリングを目的に実施いたしました。

(2) 実施概要

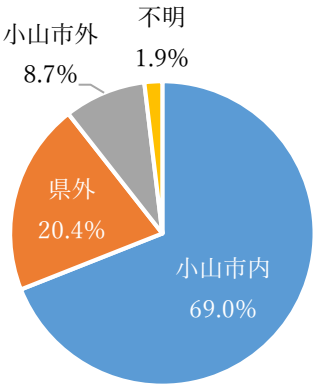
①配布方法　：調査対象へ回答用紙を配布・回収
②調査期間　：令和 4 年 11 月 19 日（土）～令和 4 年 12 月 7 日（水）までの 19 日間
③配布数　　：配布数 103 票、回収数 103 票、回収率 100.0%

(3) 調査対象

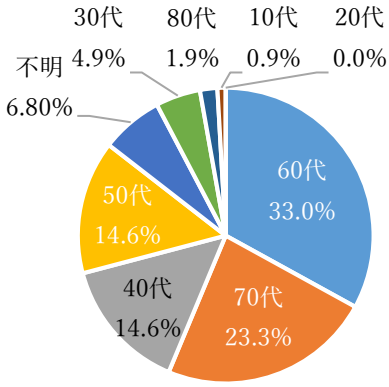
イベント名等	回答数
令和 4 年度「小山きものの日」来場者	83 名
令和 4 年度「真綿かけ・糸つむぎ講習会」受講生	11 名
令和 4 年度　手ぶら de 着付教室～本場結城紬着心地体験～　受講生	9 名
合計	103 名

(4) 調査対象の基本データ（回答者数＝103 名）

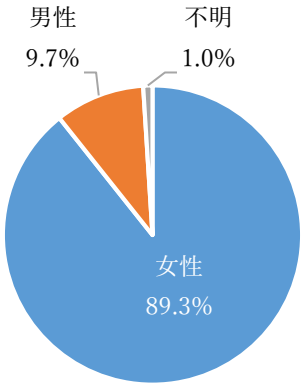
【居住地域】



【年齢】

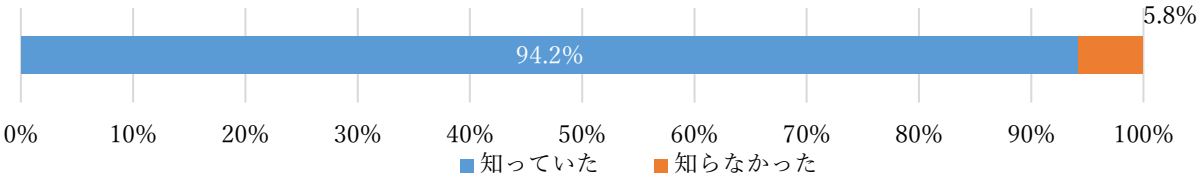


【性別】

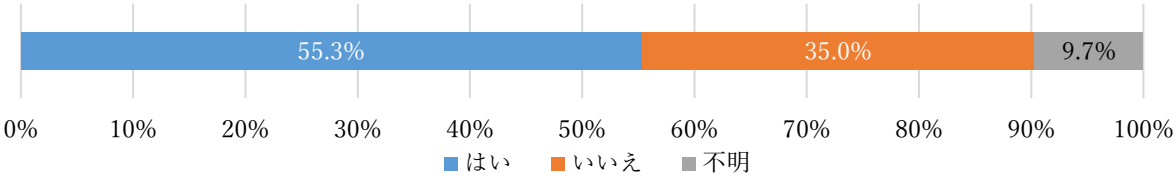


(5) 調査結果

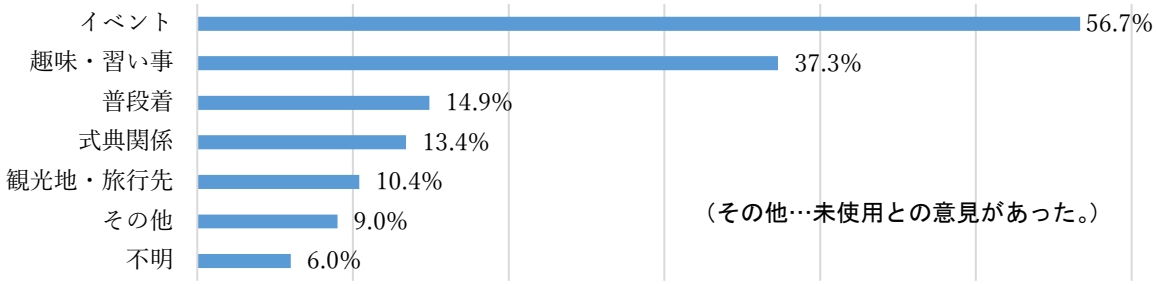
【問 1】小山市が本場結城紬の生産地だと認知していたか（回答者数＝103 名）



【問 2-①】本場結城紬を所有しているか（回答者数＝103 名）

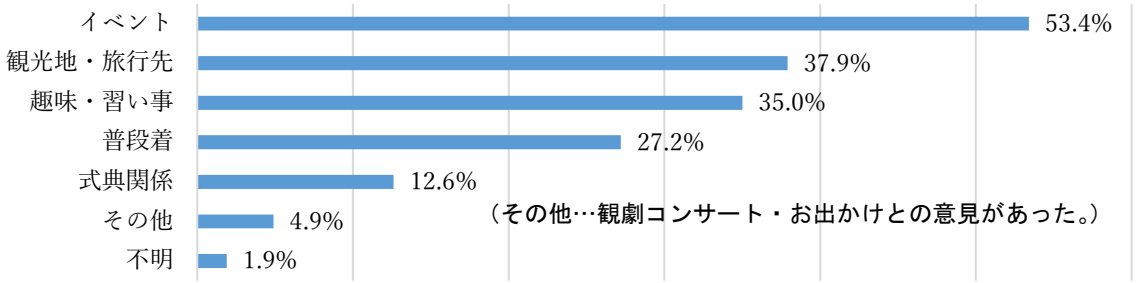


【問 2-②】問 2 で「はい」または「不明」と回答した人でどのようなシーンで着用したか
（複数回答のため、割合の総和は 100%を超えます。）



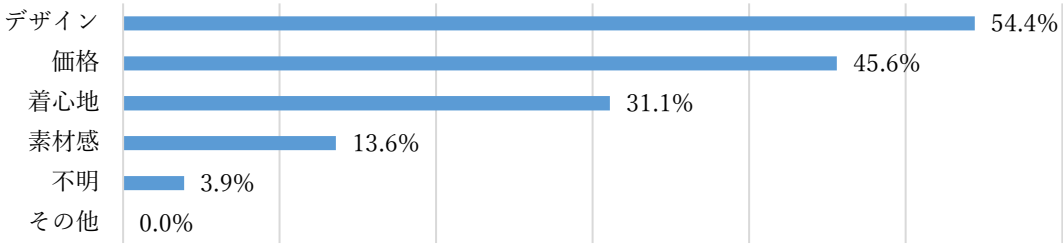
（その他…未使用との意見があった。）

【問 3】今後どのようなシーンで本場結城紬を着てみたいか
（複数回答のため、割合の総和は 100%を超えます。）

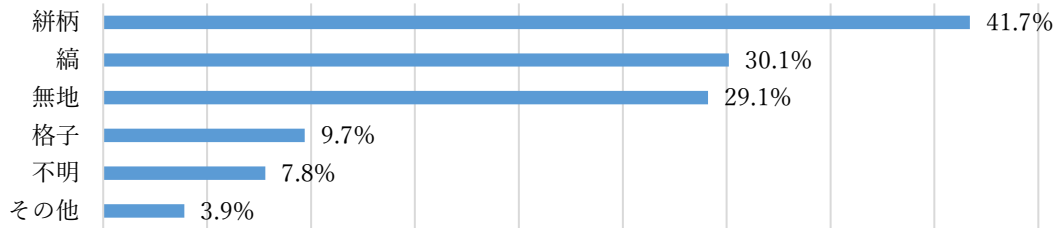


（その他…観劇コンサート・お出かけとの意見があった。）

【問 4】本場結城紬を購入するとしたら重視すること
（複数回答のため、割合の総和は 100%を超えます。）

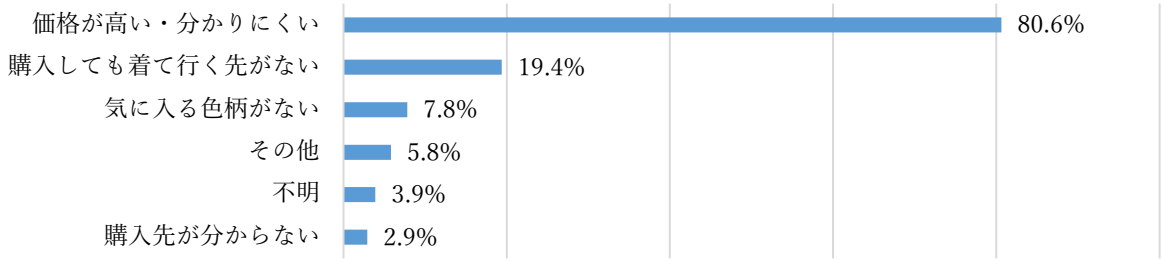


【問 5】本場結城紬を購入するとしたら、どのようなデザインや色が欲しいか
（複数回答のため、割合の総和は 100%を超えます。）



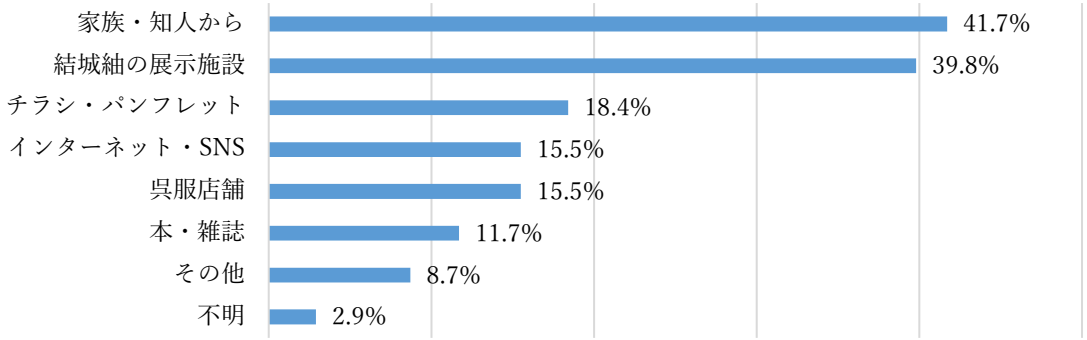
○絣柄で欲しい色 … 赤・紺・緑・茶・ベージュ・藍染・白・紫・黒・藤色
○縞で欲しい色 … 青・グレー・ベージュ・薄い色・茶・かつお縞・紺
○無地で欲しい色 … 薄紫・寒色・ピンク・青・濃いピンク・紺・柿色・ベージュ・思川桜・金茶
○格子で欲しい色 … 青
○その他で欲しい色 … 花柄・えば・とび柄（つばき）・訪問着・白ベース

【問 6】本場結城紬を購入するにあたっての壁となっていること
（複数回答のため、割合の総和は 100%を超えます。）



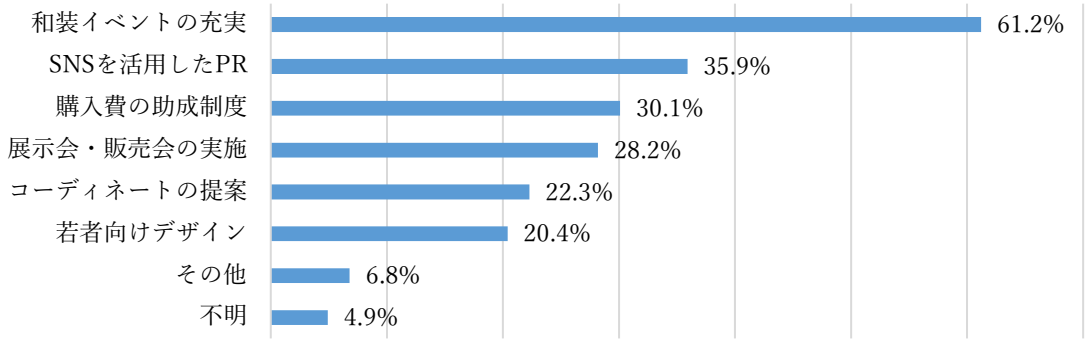
（その他…つむぎなので正装時に着用できないとの意見があった。）

【問 7】本場結城紬の情報をどこから収集するか
（複数回答のため、割合の総和は 100%を超えます。）



（その他…お一ラジ・広報・仕事関係・呉服展示会・結城市からの情報との意見があった。）

【問 8】今後、本場結城紬の魅力度アップにつながると考えるもの
（複数回答のため、割合の総和は 100%を超えます。）



（その他…若者に向けた SNS 発信・海外 PR・着物愛好家が集うおしゃれな施設を作るとの意見があった。）

小山市本場結城紬未来継承ビジョン

企画／発行　小山市産業観光部工業振興課
〒323-8686　栃木県小山市中央町１丁目１番１号
電話 0285-22-9397　FAX0285-22-9256
http://www.city.oyama.tochigi.jp/